

## 地域連携推進会議 報告

2026/03/11 早矢仕

あつたまある café

実施日 令和8年2月26日（木）午後1時～午後2時30分

場所 グループホームまある

出席者 計6名

利用者代表、利用者家族代表、地域関係者、世話人代表、サービス管理責任者、管理者 各1名

### 概要

- ・ 施設見学
- ・ 自己紹介、会議の目的を確認
- ・ グループホームまあるの紹介
- ・ 利用者から住んでいて感じること
- ・ ご家族からまあるに感じること
- ・ 世話人から働いて印象に残っていること
- ・ 地域の関係者からそれぞれの話を聞いての感想
- ・ おわりの挨拶

全員がそろわれたところで、施設見学から始める。

1階、2階の居室の数、世話人の休憩室の説明をしながら、利用者自身が利用している居室を本人より紹介する。地域関係者からは、近隣に大きな建物がなく、日当たりがよい点は利点ですねと感想をいただく。

リビングの席に戻り、自己紹介をし、会議の目的の説明を行う。

「利用者と地域との関係づくり」、「地域の方への事業所等や利用者に関する理解の促進」、「事業所等やサービスの透明性・質の確保」、「利用者の権利擁護」を目的として、事業所等が設置主体となり、地域の関係者を含めた外部の方を構成員とした「地域連携推進会議」を年1回以上開催し、構成員が事業所等への訪問を年1回以上実施することが今年度より義務化され、招集させていただいたことを管理者より説明する。会議名称を『あつたまある café』として、参加しやすく話し合いやすい会議としていきたい旨も伝える。

次にグループホームまあるの説明をする。

配布資料に基づいて、グループホームまあるが社会福祉法人京都ワークハウスが運営していることを伝える。グループホームの沿革の説明をして現在の利用者定員と空き室状況を伝える。一日の流れについては、資料とともに日頃の暮らしの様子の写真をテレビ画面に映し出し紹介する。

家族 「食事のとり方は、コロナ禍に各居室でとる方式が変わったが、以前のようにリビングでそろって食べる方式に戻る予定はないか？」

世話人 「現在は、リビングでも部屋でも場所を選んで食べてもらっている。よし悪しがあり、みんな

で食べるから元気になる方もいれば、落ち着いて食べたい方もいる。鍋をみんなで囲んで食べる機会を作った。その時にも、すぐに部屋に戻られる人はいます。」

利用者 「一人で食べたい。テレビのチャンネル争いが無い。」

この流れから、利用者の感じていることを発言してもらう。質問にも答えていただく。

利用者 ショート利用からグループホーム入居となって思うことは？「自分の部屋ができた」

どんな過ごしをしていますか？「テレビ。ニュース、天気、野球を観ている。」

野球が好き？「26年の名鑑を買った。」

お風呂は一人で入っていますか？世話人に見てもらっていますか？「一人で。一番に入る。」

ごはんはおいしい？「おいしい。お肉を世話人にリクエストした。」

続いて、家族より発言。

家族 「出来ることが増えました。ことばも増えて驚いている。集団生活の中で半自立という形で生活できていてありがたい。年をとっても健康であれば利用を続けてもらいたいと考えている。地域の方とお話合いができたらいいなと思っている。親が死んだとしてもワークに通い続けられるのであればしていただきたい。親として子どものことばかりを考えていたが、自分のことを考えらるようになったし考えなければいけないと思うようになった。世話人とのつながりから生活ができていると感じる。グループホームとして、仲間同士、兄弟のようなつながりも期待している。」

できることが増えたこと、ご自宅での様子で具体的に教えていただけますか？

「ごはんの時間になると、台拭きをはじめ、食器並べをしてくれる。食べた後は流しまで持ってきて片付けをしてくれる。世話人がしていることを見て、自宅でしてくれている。」

続いて、世話人より発言。

世話人 「2019年5月から入らせていただいた。7年歳をとったという見方もできる。他の福祉施設の経験もないので比較はできないが、長く同じ人と一緒に過ごすという経験は、なかなかできない貴重な経験と思っている。勤めてから料理を作れるようになった。朝に調理に来て下さる方が出発する利用者を見送る姿をみて感じることもある。着替えに15分かかるともおられ見守る、一人ひとりの生活の仕方を感じる。利用者同士の関係性については共通のたのしみをつくることを模索しているがなかなか難しい。卓球で盛り上がることもあるが続かない。これから年をとっていくことを考えると若いうちに覚えられることを教えて覚えてもらうという支援も考えていきたい。」

続いて、地域関係者より発言。

地域関係者 「ホームが出来たばかりに内覧会で見せてもらって以来、中を見させていただいた。高齢者施設事業所をしており、介護保険制度なので障害サービスとは違って勉強になった。介護保険は比較のお付き合いは短い。障害サービスはゆったりとした時間の中で関われるのがよいと感じた。介護保険のデイサービスやグループホームでも、元々は買い物と一緒にいくなどしていても、高齢化、重度化でお部屋での支援になってしまうのが現状。また、違いとして、介護保険で家族となると、子どもであるが障害サービスは親であり、親の思いも熱い思いがあると感じられた。地域とのかかわり、近くの事業所とのかかわりとして共通のイベントがそれなりにあると感じる。そのような関わりを大事にしていきたい。世代の移りに関しての課題や、月一回の鍋などの取り組みがよいと思った。」

家族 「地域とのかかわりとして、表の掃除を試みるのはどうか。朝や夕方に表に出ていると隣と顔合わせができ、挨拶を交わすことで関わりができ住んでいる人をお互いに知れる機会になる。」

最後に管理者より、本日の参加のお礼と、今後とも地域との関係づくりとして相談に乗っていただくご協力のお願いをして会を締める。